



新潟県 支部 報

'80年11月30日

No.9 (秋)

(財) 日本野鳥の会新潟県支部

私のフィールド

上川村「月山」

上川村 小池 重人

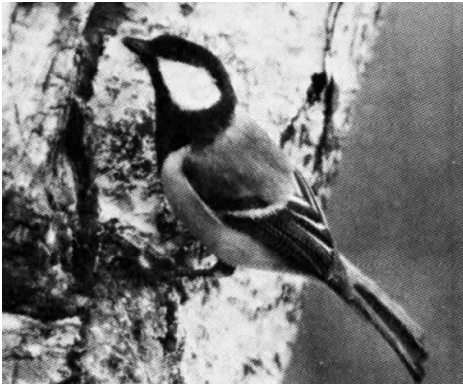
東蒲原郡上川村、この村は阿賀ノ川上流津川町の南東部に位置する。地形や環境は主に急峻な山地の森林で、一部は常浪川流域の河



(月山のブナ林)

岸段丘からなる田畑となっている。特に奥地は県境ということもあって原生状態のブナ林が広範囲に残されている。そのため居ながらにして、様々な鳥を観察することができる。

中でも月山は、人家近くにありながら非常に良く原生状態のブナ林が残された場所である。標高も330mと低く毎日の観察を楽しむ点でも向いている所で、以前から東蒲の人達の良きフィールドとして親しまれてきた。そのすばらしい環境は多くの野鳥たちを集める。今年まだ残雪が消えぬ4月、ヤマガラは上川中学校の生徒達が架けた巣箱でもう産卵を始めていた。5月になってブナが一早く新緑を芽吹かせる頃、キビタキ・オオルリ・センダイムシクイ・ヤブサメなどの夏鳥がいっせいに渡来し囀り始める。また、分布が局地的なイカルも普通に姿を見せる。5月半ばと



(シジュウカラ撮影：小池 重人)

もなれば、月山の主人公ブッポウソウがガガガ……と鳴きながらテリトリ争いをくり返す。

初春の早朝、月山の頂上から見る常浪川の流れや南にそびえる御神楽岳のながめはとてもすばらしく、冷たい空気と小鳥たちの囀りとともに、私の気持ちをとてもすがすがしいものにしてくれる。こんなフィールドを見つけることができたことを私はとてもうれしく思っている。 (上川中学校内)

佐潟の問題について

事務局報告

〔はじめに〕

新潟市郊外に(赤塚)位置する佐潟は広さ38.2ヘクタール、県内でも数少ない砂丘湖の一つである。又、ここは国際渡り鳥条約により

保護対象となっているハクチョウ、ヒシクイなどが身近かに見られる所でもある。

〔写真参照〕



(佐潟全景：撮影 吉川 吉枝)

〔経過〕

ところが佐潟から約300m離れた広さ82.5ヘクタール、標高52mの通称「板藤砂丘」を標高13メートルまで削り取り、畑地を造成する計画が持ち上がり、地元の赤塚地区畑地整理組合が今年5月27日付で「土地形状変更許可」を県に申請した。この事は7月16日付新潟日報に掲載され反響を呼んだ。一方第4次鳥獣保護事業計画による基準改正に伴ない、環境庁が国設鳥獣保護区に佐潟を候補地として選定されたいということで8月11日、現地にて公聴会が開かれた。結果は保護区設定に賛成6、反対6の同数であった。その後、具体的に状況は進展していないが、県では直ちに「板藤砂丘」の10ヶ所に地下水位と水脈をボーリング調査して開発が佐潟の環境に影響がないかどうか調査する段階まできている。

〔今後〕

9月16日付で日本白鳥の会から佐潟に関する打合せ会の実施と陳情書(案)が県支部に届き、次いで9月27日に長岡市での県支部役員会で千葉副支部長から経過などの報告があり、審議を重ねた結果、下記の通り開発には反対する事となった。会員諸氏の絶大なる御指導、御協力が得られればこの上ない喜びであります



(ヒシクイ：撮影 吉川 吉枝)

〔反対理由〕

佐潟の水は「板藤砂丘」のすそから湧き出ている。地下水位が下がれば当然、湧水に変化が起これと考えられ、佐潟自身が枯渇する恐れがある。当然として、ハクチョウ、ヒシクイなどの水鳥類も飛来しなくなり、景観も破壊されるのでぜひ現状の保全を希望したい。

ツバメ類の調査について

事業・企画 小野 絹子

先日の調査には、御多忙中協力していただきまして誠にありがとうございました。

詳しい結果を本号に発表する予定でしたが、非常に多くの貴重なデータが集まりましたので報告書として別に発行することになりました。楽しみにしていた方も多いたと思いますが、皆様の御期待にそえるような報告書にしたいと思っておりますのでもうしばらくお待ち下さい。

今回の調査で、ツバメが減りイワツバメが増えた地域が多い事、コシアカツバメやイワツバメはほとんど人工的に営巣しているなどいくつかの興味あることがわかりました。詳しくは報告書を御覧下さい。年内に発行する予定ですですのでどうぞお楽しみに！来年度もよろしく願いいたします。

新潟県初記録

アメリカウズラシギ

詳細は次号に掲載します。

探鳥会の結果報告

◎妙高々原探鳥会

7月5～6日、妙高々原関、燕温泉を中心として探鳥会を行ない、雨にあいながらもオオルリの巣を見つれたり、ジュウイチ、コルリ、クロジ、ルリビタキなどの高山鳥の鳴声に耳をかたむけていた。

(確認鳥) イワツバメ、ヨタカ、トラツグミ、カワラヒワ、ムクドリ、ヤブサメ、ヒヨドリ、イカル、オオルリ、アオゲラ、ホトトギス、ホオジロ、スズメ、クロツグミ、アカゲラ、ミソサザイ、キジバト、ウグイス、キセキレイ、カケス、ヒガラ、シジュウカラ、ジュウイチ、キビタキ、コルリ、クロジ、ルリビタキ、メボソ、エゾムシクイ、コサメビタキ (30種) 参加10名

◎四ツ郷屋浜探鳥会

9月7日、新潟市の四ツ郷屋浜と巻町越前浜付近まで、渡り途中のシギチドリ類を観察した。あいにくの天候であったが、参加者は約70名。散会後有志で佐潟を訪れ水鳥類を観察。

(確認鳥) トビ、シロチドリ、メダイチドリ、キョウジシギ、トウネン、ハマシギ、オバシギ、ミュビシギ、キアシシギ、イソシギ、ソリハシギ、チュウシャクシギ、サルハマシギ、アメリカウズラシギ、アカエリヒレハシギ、ユリカモメ、ウミネコ、キジバト、ショウドウツバメ、ツバメ、ハクセキレイ、イソヒヨドリ、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシブトガラス (39種) ※アメリカウズラシギは本県初記録 (参加70名)



(四ツ郷屋浜探鳥会で：撮影 渡部 通)

◎鳥屋野潟探鳥会

11月9日、めずらしく朝から晴天となった。日本海からの冷たい北風をまともに受けながらも、時にははがむしゃらに餌をとったり、はばいたり、ディスプレイするカモ、ハクチュウ類を観察。プロミナーを通して見るコサギ、ダイサギの純白のみずみずしさ、ハジロカイツブリとカンムリカイツブリの特徴ある頭など、ビギナーとベテラン会員に混じって小・中学生の参加者の多かったこと等も印象深い探鳥会であった。

(確認鳥) カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オオハクチュウ、コハクチュウ、マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、トビ、ハイタカ、チュウヒ、ハマシギ、アオアシシギ、ユリカモメ、ウミネコ、キジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス (参加55名)

◎ 渡り鳥についての勉強会

10月25～26日、柏崎市米山にある米山山荘において勉強会が開かれ、講師の吉井正先生（山階鳥類研究所標識研究室長）と風間辰夫先生（本会々員、県自然保護課）の話しに熱心に耳を傾けていた。25日は15時から受付が始まり18時近くなるとおなじみの方々があちこちで談話をしているのが見られた。夕食を済ませ、地元の小林成光氏（本会幹事）の進行で日程等が披露され、県支部を代表して山本明副支部長、続いて柏崎市長（代理環境部長）がそれぞれ歓迎のあいさつを述べた。講演のトップは風間先生で始まり、県内の鳥類の渡りコースと現在までの珍鳥の渡来記録などについて話され、次いで吉井先生が自然保護の重要性と標識の役割などをじっくりとわかりやすく説明し、私たちに古くからなじみ深いツバメ、スズメ、モズ、などがどのような経路で渡ってゆくかを地図を使用して説明され、漂鳥、渡鳥、夏鳥、冬鳥などの区別の疑問点なども大変興味のある内容であった。26日は台風並みに発達した低気圧の影響で強風のため標識研修会は中止となった。今回の設営に当たって地元の柏崎グループの皆さんに深く感謝いたします。

各地の鳥だより

◎ 下越ブロック

チュウサギ、ユリカモメ、バン（成5、幼2）ダイサギ、アオサギ、カルガモ、ウミネコ、オオヨシキリ、ゴイサギ、ツバメ、6月28日新潟市鳥屋野潟。ハシビロガモ♂1 7月8日場所同じ。7月19日、阿賀野川下江口にてマガモ♂1♀1、♂は首の緑色がない以外は冬羽と同じエクリプス、♀のような首。繁殖は確認不

能カシラダカ初認、9月26日、福島潟にて（以上（観察者 佐藤 弘）、ホオジロ4、サメビタキ±10、オオルリ4、ゴジュウカラ±10、キビタキ1、ヒガラ3、メボソ2、ウグイス2、イヌワシ1、ノビタキ1、ホシガラス1、9月21日東蒲鹿瀬町（観察者、小池重人、渡部通）ミゾゴイ1、10月2日、東蒲上川村（観察者 渡部 通）

カシラダカ初認 10月15日 新津市滝谷、ヒシクイ600± 10月6日 新潟市鳥屋野潟、ヒガラ15±、キクイタダキ3 久し振りに平野部へのヒガラの大幅移動の年か、10月16日 護国神社付近、マヒワ、シメ 10月18日 田上町護摩堂山々頂（観察者 本間隆平）

◎ 中越ブロック

9月13日南魚塩沢町上田小でアカエリヒレアシシギ幼鳥を保護（桑原先生より私信）、10月上旬塩沢町仙石、朝定期的にカワセミ1羽姿を見せるようになった。しかし10月16日を最後にこなくなる。10月4日エゾビタキ同所の桐の木梢で1羽。10月9日南魚六日町金城山登山、山頂付近よりホシガラスの声、山麓の大倉部落でハシボソガラス20羽に追われて逃げていくイヌワシ幼鳥を目撃。10月10日中魚中里村芝倉沢マヒワの群れ50羽、ホオジロの小群めだつ、アマツバメ数羽とイワツバメ少し、カシラダカ1羽。同日南魚塩沢町でカシラダカ初認。10月16日南魚六日町総合庁舎前、シダレヤナギにハクセキレイ30羽位が峙しているのを発見、10月20日には近くのヒマラヤ杉にもいて100羽近くになる。（以上観察者 木下 弘） 10月8日、カシラダカ初認、同日ショウドウツバメ±80、10月9日ヤマシギ、10月14日ノゴマ1、同日シジュウカラ、エナガ、ヒガラ、コゲラの混群±50、10月15日ヒヨドリ南下途中の飛翔±60、10月16日アトリ南下途中の飛翔±120、マヒワ初認2、ハイタカ南下途中の飛翔10、以上柏崎市荒浜。（観察者 渡部 通）

事務局だより

年末をひかえあわただしい毎日となりました。各地から冬鳥のニュースが聞かれる昨今でもありますが、渡来状況、写真、報文など気軽に事務局宛にお寄せ下さい。

本年度会費未納の方は是非お願いいたします。年額 1,000 円です。会の運営にご協力下さい。

81年のカレンダーと図書など只今受け付けております。県支部を通して購入して下さい。探鳥会などにお持ちいたします。

80年もあとわずか皆様どうぞよいお年を。来年もよろしくお願いいたします。

編集後記

支部報9号をお届けします。今回はビギナーの方の投稿がありませんでしたが、次回は是非投稿をお願いします。これから寒くなりますが、お体に気をつけて探鳥をお楽しみ下さい。（小池）

日本野鳥の会新潟県支部報		№9 (秋)
発行	昭和55年11月30日	編集 小池 重人
発行所	(財) 日本野鳥の会新潟県支部	
	〒 959-44	新潟県東蒲原郡津川町三郷乙1193番地
	電話 02549 (2) 5045	渡部 通方
	振替 新潟6002	会費 年額 4000円 (本会費とも)